秘密指定解除
外交記録・情報公開室

極秘

1. 次官
2. 島外務審議官
APR. 18. 1962

アジア局長
宇山審議官
ト部参事官
北東アジア課長

日韓問題に関する小坂大臣、ライシャワー大使会談記録

37. 4. 17.
北東アジア課

17日午後、ライシャワー大使は小坂大臣を来訪し会談したが、その間、日韓問題に関する部分は次のとおり。

まず、小坂大臣より、先般の第1回日韓政治折衝の要点を説明し、話合いは請求権

漁業、韓国人の法的地位、文化財、船舶等諸懸案にわたり、また、両国間の交流を改善するという趣旨から竹島問題も取り上げたが、会談の中心は何といっても請求権問題であり、その基本的な考え方として、賠償ではないこと、南北鮮、アメリカ解釈、証拠書類の問題があること等を指摘した。これに対し韓国側は竹島問題、南北鮮の問題について強く反論してきた。結局会談を通じて判明したことは、双方の考え方が大きく喰い違っていることと、崔長官の態度[illegible]より

外務省

もかたいということであった。従来の朴正熙議長や金鍾泌中央情報部長の態度とは非常に違っていた。日本側としては熱意をもって政治会談に臨んだのであるが、崔外務部長官は、日本側のいうことをどうしても理解しようとしなかった。結論として、自分は今回の政治会談の結果につき落胆している旨述べた。

これに対し、ラ大使より、米国としては、本国政府はもちろん在京大使館もソウル大使館でも、今次外相会談の結果、両国

関係が一歩前進するものと大いに期待していたが、逆にむしろ後退したようなことになり、非常に失望している次第である。日本側においては今後どうするのか、参議院選挙の後には再開する考えがあるのか、その辺のところを聞かわりたい旨質した。

小坂大臣より、これに対し、先方の考え方が変らぬ限り、現在のところ会談を行なう気持はない、今のような韓国側の考え方では、いくら話合っても何ら成果は生まれてこないように思われる。わが方が韓国側の

言い分をそのまま飲むようなことがあれば、日本の国民がおさまらないものと考える。池田総理においても当分は駄目だという感じを持っておられるように承知している旨述べた。

ラ大使は、これに対し、貴大臣が日韓の考え方が違うと申されたのは数字の問題なのであろうか、もしそうとすれば、7億ドルと7千万ドルとでは自分としてもあまりに大きな違いであると考える。自分としては日本側の7千万ドルというのはあまりにも

unrealistic な数字であるといわざるをえない。

韓国人は非常に sensitive な国民である。

問題の根本は、請求権という法律問題でもなく、また、経済協力という経済問題でもなく、結局、36年の朝鮮統治に由来する韓国国民の psychology の問題なのである。

日本の考えている線が7千万ドルとか、1億ドル程度というのでは、到底韓国側はおさまらないであろうと考える。個人としては、日本側がもう少し出すべきだと思う。呼称は請求権でも無償援助でもかまわないが、何れにしろ

数億ドルはおされば解決しないと考える。

10年位に分割して出せば、日本は充分出し得る実力があると考えると述べた。

これに対し、小坂大臣より、日本としては朝鮮に莫大な財産を置いてきた事実を指摘せざるを得ず、また、米国が在韓私有財産を没収したのは、戦時国際法違反であるという問題も起り得るし、そうなれば日米関係にも影響しよう。従って、日本としては請求権であれ、無償援助であれ、韓国側に支払う結果となる金額は小さくせざるを得ない、

そして長期低利という考え方になるわけだが、
韓国側はこれには全然興味も示さない。
また、貴大使は、韓国人のpsychologyの問
題であるといわれるが、日本側にもpsychology
の問題がある。李承晩は、永きにわたり
反日、抗日政策をこととし、日本人は未だに
韓国人に対し好感を持っていないことを
考えに入れなければならないと応酬した。
ラ大使は、米国側でもさらに検討した上、
改めてゆっくり話し合う機会を持ちたいと
述べて会談を終った。

武内外務次官・ジェノーAID極東局長会談

37・6・8

6・8